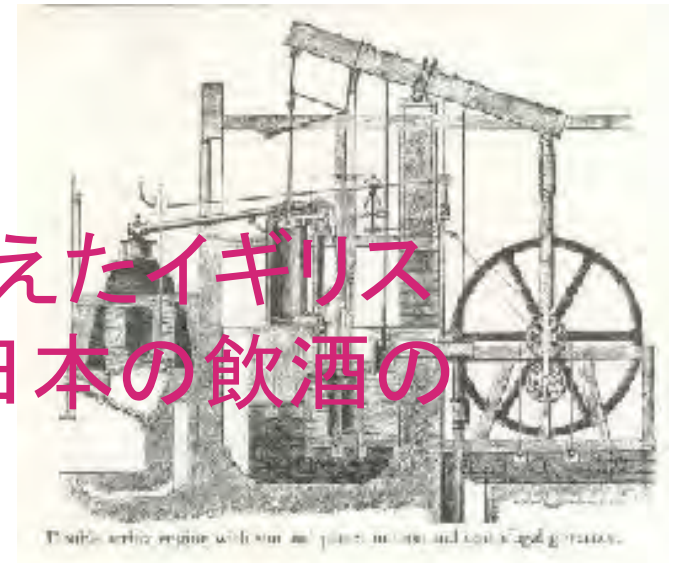


近代になってお酒は庶民のものに

- 近代化で食料の心配が減る。
- 工業化で酒が安価になる。
- 蒸留技術で濃い酒を造ることもできる。

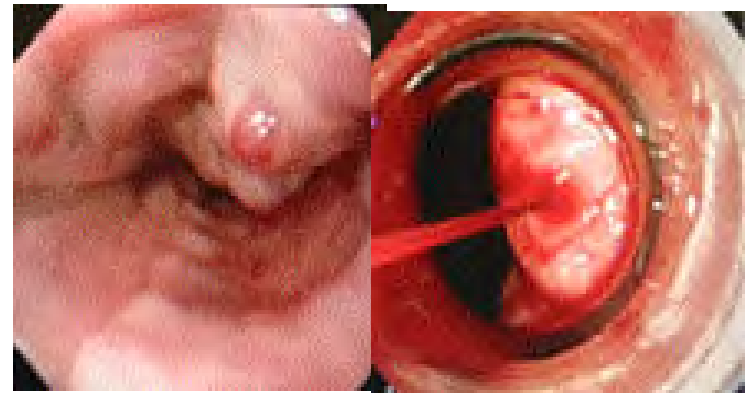
→特権階級の人でなくても「酔っぱらい続けること」が可能な世の中になった。

まず世界で最初に近代を迎えたイギリスの例を、それからアメリカ、日本の飲酒の歴史を見てみましょう



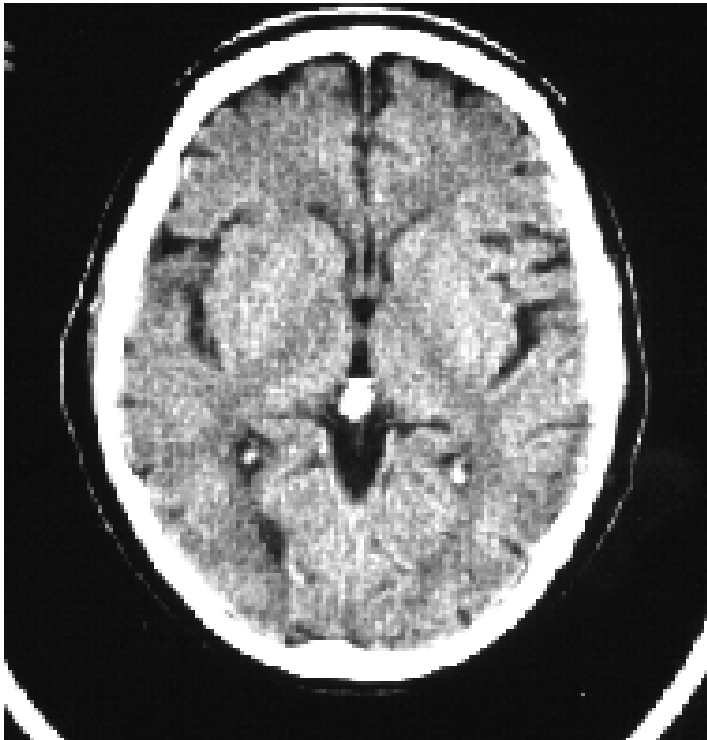
肝硬変2：非代償期（進行した状態）

- 病期が進行すると（非代償期）、合併症により多彩な症状を呈する。
- 腹水
- 静脈瘤の破綻による吐下血
- 脳症による意識障害、昏睡

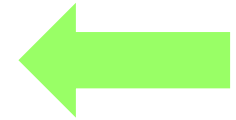


アルコールの脳への影響 1

大量飲酒によって脳は萎縮する（特に前頭葉）。



正常脳



アルコール依存症者の脳

アルコール依存症の間違ったイメージ

酔っ払って道端に寝ているおじさん

意志が弱い

好きで飲んでいる

2) 食べながら 適量範囲でゆっくりと

- 大切なのは「適量範囲」であること。
- 目指すのは「低リスクな飲酒」であり、「コントロール可能な飲酒」です。
- この場合の「コントロール」は、飲酒開始、飲酒量、飲酒終了などに関すること。
- 「量」で言えば「つついづい飲みすぎて」が「コントロール喪失飲酒」の入り口です。

